

# 地 域 経 済 動 向

平成 28 年 11 月 30 日



内閣府政策統括官  
(経済財政分析担当)

## 目 次

- 1 概況
- 2 分野別の動き
- 3 地域別の動向
  - (1) 北海道
  - (2) 東北
  - (3) 北関東
  - (4) 南関東
  - (5) 甲信越
  - (6) 東海
  - (7) 北陸
  - (8) 近畿
  - (9) 中国
  - (10) 四国
  - (11) 九州
  - (12) 沖縄
- 4 主要指標
- 5 参考資料

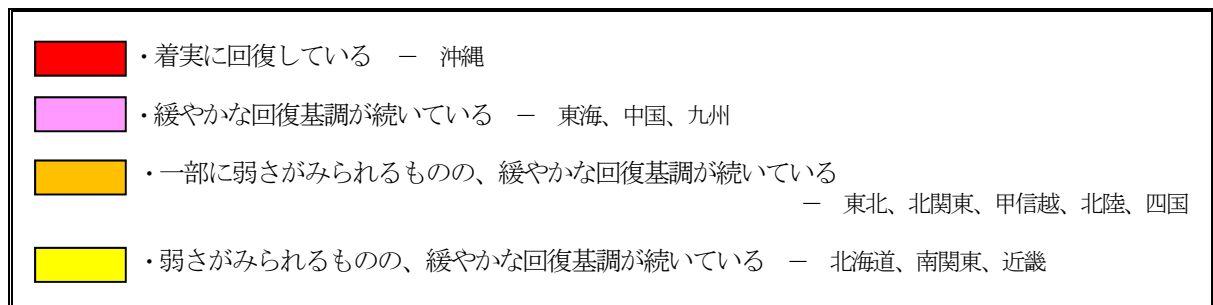
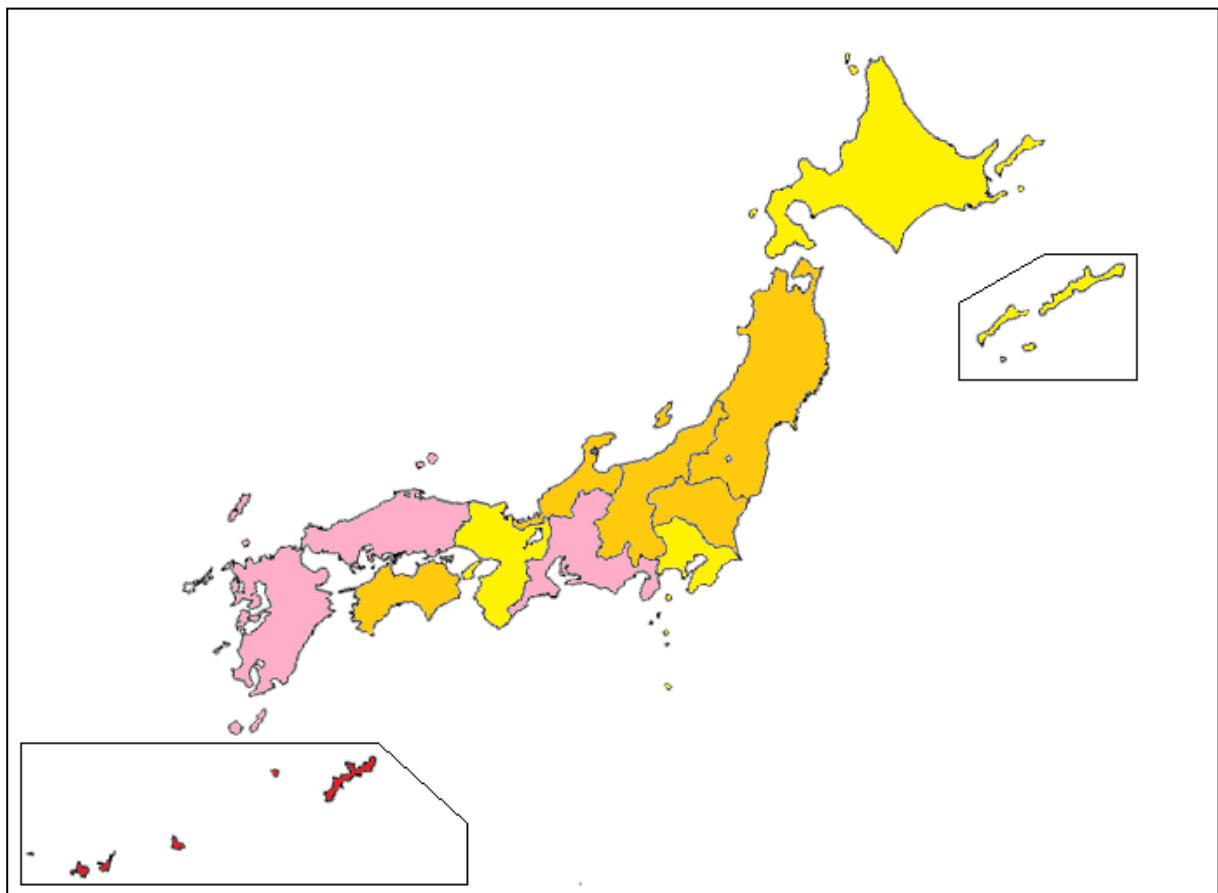
# 1 概況

## (1) 各地域の景況判断

地域別の景況判断（景気の変化方向）は以下のとおり。

- ・北海道地域は、弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・東北地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・北関東地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・南関東地域は、弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・甲信越地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・東海地域は、緩やかな回復基調が続いている。
- ・北陸地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・近畿地域は、弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・中国地域は、緩やかな回復基調が続いている。
- ・四国地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・九州地域は、緩やかな回復基調が続いている。
- ・沖縄地域は、着実に回復している。

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。



(注) 上図は、景気の変化方向の記述（緩やかに回復している、持ち直している等）に基づき、分類・色分けしている。

本報告書では、原則として下記の地域区分を採用している。ただし、下記地域区分によらない場合は備考にその旨を明記している。

地域名	都道府県名	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越	新潟、山梨、長野	
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東北	北関東	南関東	甲信越	東海
景況判断	8月 (前回)	持ち直している	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	-	緩やかな回復基調が続いている
	11月 (今回)	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	緩やかな回復基調が続いている
		↑	↑	⇨	⇨	-	⇨
鉱工業生産 (沖縄は観光)	8月	下げ止まりつつある	このところ弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	-	持ち直しの動きがみられる
	11月	おおむね横ばいとなっている	持ち直しの動きがみられる	おおむね横ばいとなっている	おおむね横ばいとなっている	おおむね横ばいとなっている	持ち直しの動きがみられる
						-	
個人消費	8月	持ち直している	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	-	持ち直しの動きがみられる
	11月	緩やかに増加している	足踏みがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	足踏みがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる
						-	
雇用情勢	8月	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	-	着実に改善している
	11月	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している
						-	

(注) は上方に判断を変更、 は変更なし、 は下方に判断を変更。

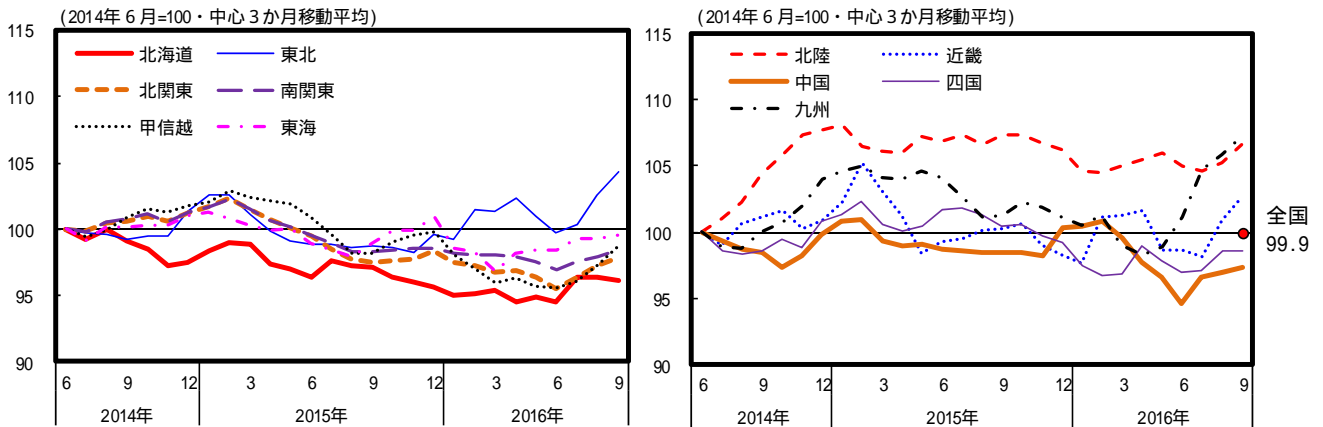
北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	着実に回復している
一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	緩やかな回復基調が続いている	着実に回復している
⇨	⇩	⇧	⇧	⇧	⇨
おおむね横ばいとなっている	おおむね横ばいとなっている	弱含んでいる	弱含んでいる	熊本地震による影響がみられたものの、おおむね横ばいとなっている	堅調に増加している
おおむね横ばいとなっている	おおむね横ばいとなっている	おおむね横ばいとなっている	おおむね横ばいとなっている	持ち直しの動きが見られる	堅調に増加している
持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	弱含んでいる	堅調に増加している
持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	おおむね横ばいとなっている	堅調に増加している
着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している
着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している

## 2 分野別の動き

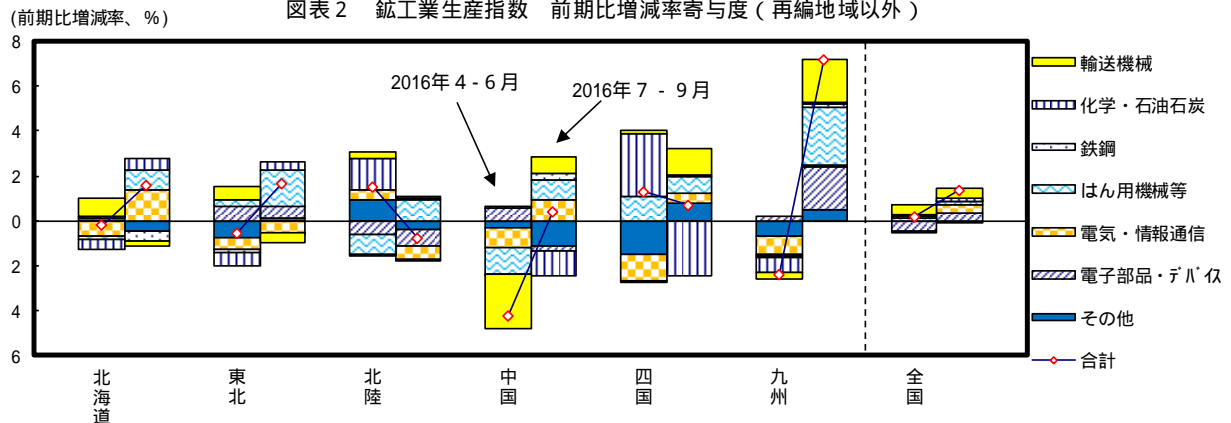
<生産> 東北、東海、九州は持ち直しの動き、北海道、北関東、南関東、甲信越、北陸、近畿、中国、四国はおおむね横ばいとなっている。

鉱工業生産(季節調整値)について、2016年7～9月期の動きをみると、九州(前期比7.2)、東北(同1.7)、甲信越(同1.7)で前期比プラスとなる一方、北陸(同0.7)ではマイナスとなった。はん用・生産用・業務用機械(海外輸出向けの半導体製造装置等)や電子部品・デバイス(スマホ用部品等)の好調が増加に寄与した地域がみられた(図表2、3)。

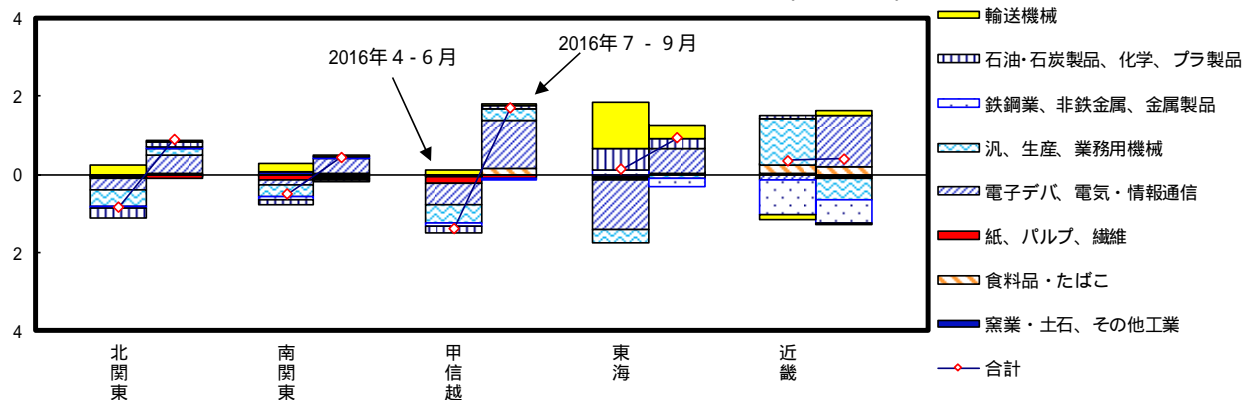
図表1 鉱工業生産指数(季節調整値)の推移



図表2 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度(再編地域以外)



図表3 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度(再編地域)



(備考) 図表1、2、3: 経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局「鉱工業生産動向」により作成。平成22年基準、季節調整値。北関東、南関東、甲信越は関東経済産業局。東海は関東経済産業局、中部経済産業局、近畿は中部経済産業局、近畿経済産業局の「鉱工業指数の動向」により内閣府にて算出。

図表1: 直近月は、2か月平均。

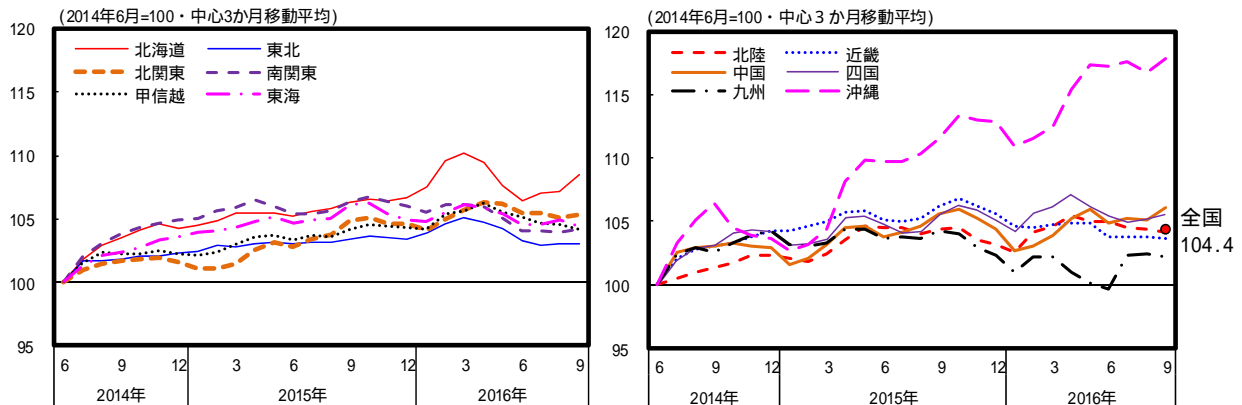
図表2: 北海道の「はん用機械等」は「一般機械」。東北、北陸、四国、九州以外の「化学・石油石炭製品工業」は化学と石油・石炭製品を足したもの。北海道、北陸、四国、九州以外の「電気・情報通信工業」は電気機械と情報通信機械を足したもの。

<消費> 沖縄は堅調に増加。北海道は緩やかに増加、東海、中国は持ち直し、北関東、甲信越、北陸、四国は持ち直しの動きが続いているものの、足踏み。東北、南関東、近畿は足踏み。九州はおおむね横ばい。

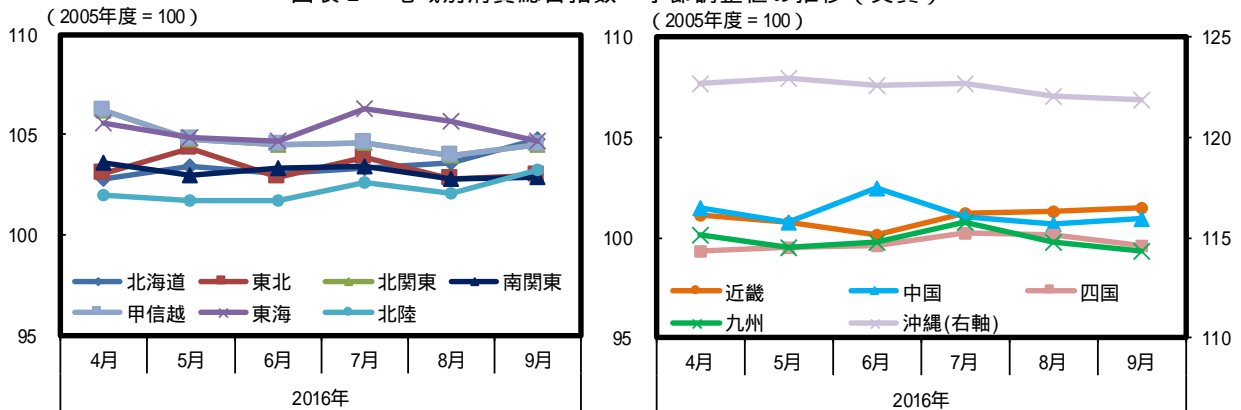
消費について、2016年7～9月期の百貨店・スーパー販売額(実質・季節調整値)の前期比をみると、九州(前期比2.6)北海道(同1.9)などで全国(同0.2)を上回る一方、甲信越(1.0)北陸(0.9)などは下回った。

地域別消費総合指数(季節調整値)においては、地域ではばつきがみられる(図表2)。百貨店売上高は、台風や天候不順による衣料品の不振等から低下した(図表3)。

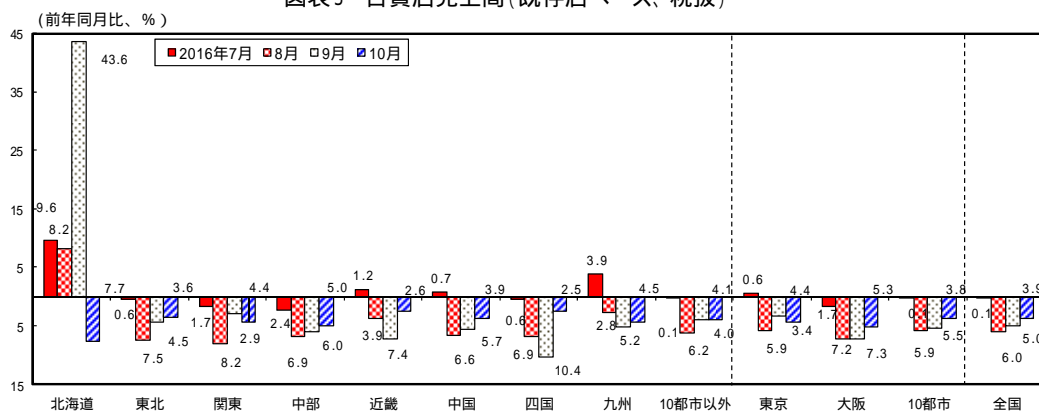
図表1 百貨店・スーパー販売額(実質・季節調整値)の推移



図表2 地域別消費総合指数 季節調整値の推移(実質)



図表3 百貨店売上高(既存店ベース、税抜)



(備考) 図表1：経済産業省「商業動態統計」、総務省「消費者物価指数」により作成し、内閣府にて季節調整。  
 北関東、南関東、甲信越、北陸の消費者物価指数は、総務省「消費者物価指数」の各都道府県の県庁所在地都市別の消費者物価指数を、総務省「国勢調査」の二人以上世帯数を用いて加重平均し、内閣府にて作成。なお、消費者物価指数は、総合指数による。直近月は2か月平均。  
 図表2：内閣府「地域別支出総合指数(RDEI)」により作成。季節調整値。  
 図表3：日本百貨店協会「全国百貨店売上高概況」により作成。10都市は、札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、福岡の合計。各地区の売上高は、10都市の売上高を除いたもの。関東には静岡県、九州には沖縄を含む。



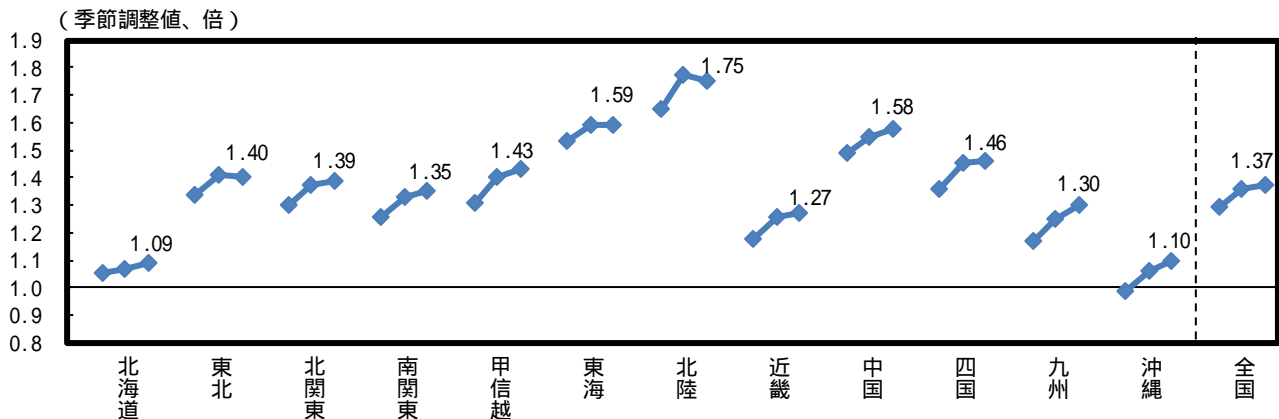
<雇用> 雇用情勢は着実に改善。

雇用情勢について、2016年7～9月期の有効求人倍率（就業地別・季節調整値）をみると、北陸（1.77 1.75）、東北（1.41 1.40）は低下、東海（1.59 1.59）は横ばいであったが、その他の地域では上昇した（図表1）。

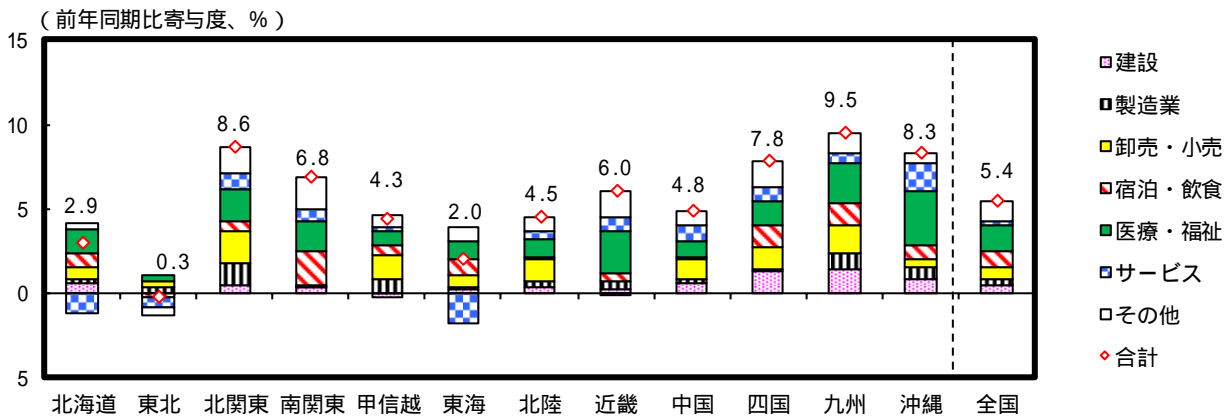
新規求人数について、地域別にみた業種別寄与度をみると、医療・福祉、製造業は、全ての地域で増加した（図表2）。

失業率をみると、沖縄（前年同期差 1.1）、北関東（同 0.8）、近畿（0.6）等で低下したが、北海道（同0.6）、北陸（同0.3）では上昇した（図表3）。

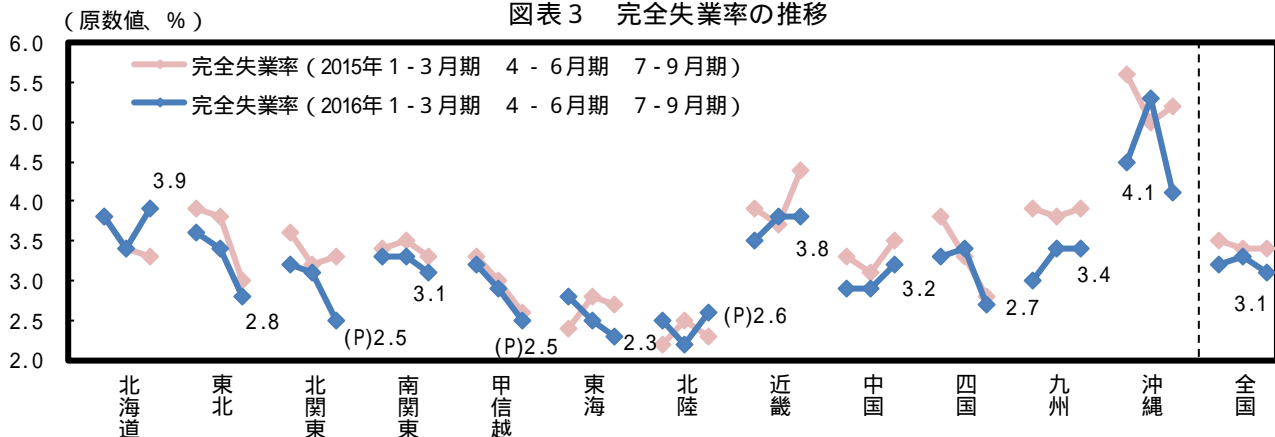
図表1 有効求人倍率（就業地別）（2016年1-3月期 4-6月期 7-9月期）



図表2 新規求人数の前年同期比産業別寄与度（2016年7-9月期）



図表3 完全失業率の推移

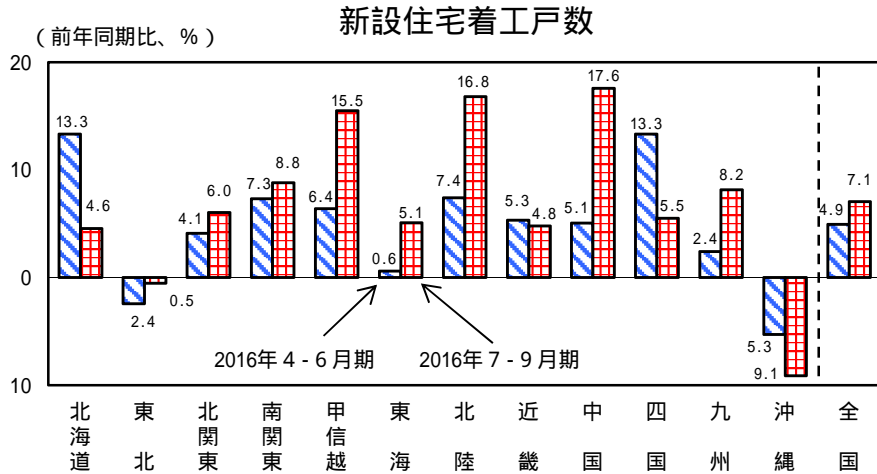


(備考) 図表1：厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。

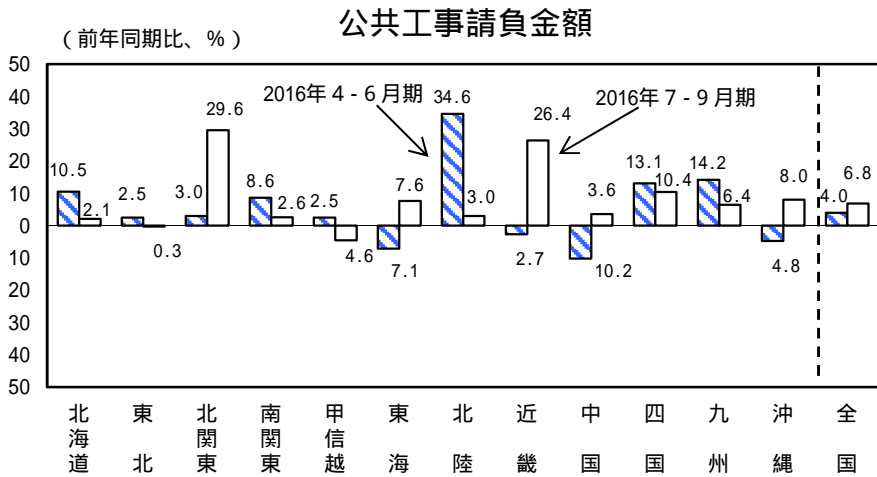
図表2：厚生労働省提供データにより作成。

図表3：総務省、沖縄県「労働力調査」により作成。北関東、甲信越、北陸の完全失業率は内閣府で算出。同地域の7-9月期の値は暫定値。

## その他の指標の動き



(備考) 国土交通省「建築着工統計」により作成。



(備考) 北海道建設業信用保証株式会社、東日本建設業保証株式会社、西日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」により作成。